

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 4 月 22 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770022

研究課題名(和文) ライシテ(非宗教性)と宗教の公共性 - フランス、ケベック、日本を事例として

研究課題名(英文) Secularism (Laicite) and Public role of Religion: Comparative Studies of France, Quebec and Japan

研究代表者

伊達 聖伸 (DATE, Kiyonobu)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：90550004

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、フランスの歴史のなかで宗教が果たしてきた公共的役割を再検討した。また、日本の政教関係史をライシテの観点から読み直すとともに、ケベックの間文化主義の生成をその歴史のなかに位置づける課題に取り組んだ。その結果、特に明らかにすることができたのは、ライシテにしばしば分離と管理の両義的な側面があるということである。また、ライシテと宗教の関係は記憶というテーマとも深いかわりをもつことについての見通しを得ることができた。

研究成果の概要(英文)：This research reexamined the public role of religion in French history. In addition, I reviewed the past researches of the structure of Japanese state-religion from the point of view of laicite, and also tried to place the emergence of Quebec's interculturalism within its long history. The principal finding of this historical approach is that laicite has been used and interpreted ambiguously to mean both separation and control. I could also see that memory could be closely related to the themes of laicite and religion.

研究分野：人文学(宗教学、フランス語圏地域研究)

キーワード：宗教学 ライシテ(非宗教性) 政教分離 世俗主義 フランス：ケベック：日本

### 1. 研究開始当初の背景

ライシテとは、諸宗教間の平等と宗教の自由を保障する原理、またはその制度のこと。大革命後のフランス社会で、反カトリック的な要素をもはらみつづ形成されたこの「宗教共存のシステム」は、社会統合の基本理念として、「世俗の時代におけるナショナル・イデオロギー」の役割も果たしてきた。

このようなライシテが現在、転機を迎えている。特にイスラームへの対応をめくり、ライシテを共生の原理として再定式化することが急務になっている。

これまではライシテを「フランス的例外」と見なす向きが強かった。現在でも、その傾向は根強い。しかし他方では、ライシテを「脱フランス化」し、世界の政教関係を「ライシテ」という観点からとらえかえず動きがはじまっている。だが日本では、ライシテの研究は立ち遅れている。フランス（語圏）の研究動向を押さえること、日本の政教関係をライシテの観点から見直すことの両方が必要とされている。

本研究は、若手研究(B)「ライシテ(非宗教性)の再定式化のために フランス、ケベック、日本を事例として」(22720029)の課題を引き継ぎ、発展させようとしたものであって、研究の展開のひとつのポイントは、フランスの宗教の公共性を見直す必要性である。ライシテは「公共空間からの宗教の徹底排除」と観念されることが多いが、実際には宗教はどのような公共的な役割を果たしてきたのだろうか。このような問題意識が、本研究の開始当初の背景にはある。

### 2. 研究の目的

研究の全体構想は、近代の政教関係を再検討し、「ライシテ」を共生社会の原理として再構成するというものである。本研究では、この大きな枠組みを念頭に、また今までの研究成果をもとに、ライシテという政教構造における宗教の公共性について検討する。具体的には、次の2点に取り組む。

(1) フランスの歴史のなかで諸宗教が果たしてきた公共的役割を見直し、社会空間における「宗教」の位置づけを理論的観点からも考察する。

(2) 公的領域における「宗教」の扱いにつき、フランス、ケベック、日本を比較検討する。これは「フランス的例外」とされるライシテを「脱フランス化」して再構成する試みに連なるものである。

### 3. 研究の方法

理論的仮説の構築と修正、資料と文献の読み込み、フィールドワークを有効に組み合わせた包括的アプローチを用いる。

フランス(語圏)の研究動向を押さえつつ、日本の政教関係をライシテの観点から見直すことが必要であることに鑑み、フランス、

ケベックのことはおもに日本語で、日本のことはおもにフランス語で発信することを念頭に置く。

(1) フランスのライシテと宗教の公共性については、「市民宗教」「公共宗教」概念の見直しをするとともに、革命以来のおもにカトリックの論者たちの言説分析を行なう。20世紀後半以降のライシテの変貌の様子についても、資料・文献に基づきながら明らかにする。

(2) 公的領域における「宗教」の扱いにかんしては、ケベックについては特に間文化主義の生成に注目する。日本については、非仏語圏にライシテという観点が有効かを問うことでライシテ概念を鍛え直す一方、日本の政教関係の特質を浮き彫りにする。

### 4. 研究成果

(1) フランスのライシテと宗教の公共性を見直しについては、以下のような成果を挙げた。ルソーの市民宗教概念が19世紀の論者たちにどのように受け止められたのかを検討した。カトリックと実証主義を両立させようとしたシャルル・モーラスの宗教論とナショナリズム論について検討した。ジャン・ジョレスの社会主義思想のなかにもどのような形で宗教性が現われているかを分析し、ライシテの枠組みのなかにおいて宗教がどのような公共性を発揮しうるかについて検討した。20世紀初頭のライシテの争点「分離」にあるとすれば、20世紀最後の四半世紀以降のライシテの争点は「承認」にあるという展望のもとに、フランスにおいては宗教の公共性を承認する際にどのような問題が生じうるのかを検討した。フランスのライシテにはもっぱら「厳格な分離」のイメージがつきまとうが、イスラームを扱う際にはしばしば「管理」の論理が現われることを、歴史の事象と現代の動向から明らかにした。

(2) 日本のライシテをフランスやケベックのライシテとの比較のなかで位置づけるといふ課題については、以下のような成果を挙げた。ライシテの要素的理解により、日本の近現代のライシテの特徴を分析した。近代化のなかで宗教が周辺化され、宗教が国家の監視下に置かれるなかでの分離が達成される全体的な方向性は日仏において共通していると言えるが、その一方で、良心の自由と信教の自由を人権の観点から位置付けることの実質的な意味合いには違いがあることを提示した。ケベックと日本には、宗教的寛容の点で一見通じ合う点があるが、やはり良心の自由と信教の自由の実質的な意味合いには違いがあるのではないかという問いを提示した。

(3) ケベックのライシテについては、ナショナル・アイデンティティの再定式化と多文化共生の要請のなかで、間文化主義がどのようなものとして生成してきているものなのかを明らかにした。また、フェルナン・

デュモンにおける記憶の問題が、後続世代にどのように受け止められているかについての論考を発表した。

(4) 本研究を遂行するなかで、文学と宗教性、医療と宗教性といったテーマについても考察と分析を進めることができた。また、現代フランスのアクチュアリティの動向(2015年1月の「シャルリ・エブド事件」、11月の「パリ同時多発テロ事件」など)に応じた考察も進めることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

DATE Kiyonobu, « Quel avenir de la mémoire ? Les postérités de L'Avenir de la mémoire de Fernand Dumont », *The Journal of American and Canadian Studies*, No.33 (2015), 2016, pp.55-69. (査読有)

DATE Kiyonobu, « Les enjeux de la fin de vie et de la mort dans la dignité au Japon : Une réflexion au miroir du cas français », *Bulletin of the Faculty of Foreign Studies, Sophia University*, No.50 (2015), 2016, pp.139-156. (査読無)

DATE Kiyonobu, “Laïcité in Late Nineteenth-Century France and Its Significance Today,” *Sophia Journal of European Studies*, Vol. 8 (2015), 2016, pp.3-18. (査読無)

伊達聖伸「偽の問題を退けること、問題提起の仕方を変えること」『ふらんす特別編集 パリ同時テロ事件を考える』2015年、50～52頁(査読無)

伊達聖伸「フランスにおける自己決定とその宗教的・文化的背景」『文化と哲学』32号、2015年、19～38頁(査読無)

伊達聖伸「イスラームはいつ、いかにしてフランスの宗教になったのか」『宗教研究』383号、2015年、107～132頁(査読有)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009986746>

DATE Kiyonobu, « La laïcité : de curieux chassés-croisés entre la France et le Japon ? », *Revue de Collaboration culturelle franco-japonaises*, n°84, mars 2015, pp.238-241. (査読無)

伊達聖伸「日本とフランスのあいだでライシテを考える」『日仏文化』84号、2015年、101～103頁(査読無)

伊達聖伸「フランスにおけるイスラームの制度化と表象の限界——宗教を管理するライシテの論理」『ODYSSEUS』別冊2(2014)、2015年、35～57頁(査読無)

伊達聖伸「ライシテの再強化が道を踏み外さないように」『ふらんす特別編集 シ

ャルリ・エブド事件を考える』2015年、58～60頁(査読無)

伊達聖伸「ヴォルテールとシャトーブリアンの宗教批判——「寛容」から「自由」へ」『東京大学宗教学年報』XXXI、2013年、17～34頁(査読無)

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/56054>

DATE Kiyonobu, « La laïcité de reconnaissance s'enracine-t-elle au Japon ? », *Diversité urbaine*, vol. 13, n°1, 2013, pp.65-84. (査読有)

<http://www.erudit.org/revue/du/2013/v13/n1/1024711ar.html?vue=resume&mode=restriction>

伊達聖伸「シャルル・モーラスにおける宗教的ナショナリズムの思想構造」日本政治学会編『宗教と政治』(年報政治学2013-I)、木鐸社、2013年、122～144頁(査読有)

[学会発表](計19件)

DATE Kiyonobu, « Une laïcité interculturelle à rebours au Japon ? : Une réflexion au miroir de la laïcité interculturelle au Québec », Conférences-midi du CIEQ-UQTR, Université du Québec à Trois-Rivières, le 25 février 2016. トロワ=リヴィエール(カナダ)

伊達聖伸「ライシテの変貌とテロリズム」日仏会館人文社会系セミナー討論会「パリ同時テロ事件を考える」日仏会館(東京都・渋谷区) 2016年1月12日

伊達聖伸「フランスにおけるイスラームの制度化に見るライシテの論理」第16回「移民の参加と排除に関する日仏研究会」駒沢大学(東京都・世田谷区) 2015年12月26日

伊達聖伸「ライシテとは何か——西アフリカのライシテを論じるためのヒントとして」第9回「西アフリカのイスラーム」研究会、総合地球環境学研究所(京都府・京都市) 2015年12月19日

DATE Kiyonobu, “Politics and Religion in Postwar Japan: Focusing on the Relationships between Political Parties and Religious Groups,” Panel “Rethinking the History of Religions in Postwar Japan from a Post-Secular Perspective,” XXIth World Congress of the International Association for the History of Religions, Efrurt, 24 August 2015.エアフルト(ドイツ)

伊達聖伸「19世紀の思想と文学」日本フランス語フランス文学会 2015年度春季大会、明治学院大学(東京都・港区)、2015年5月31日(ワークショップ「いま19世紀文学をどのように読み解くか」にて発表)

DATE Kiyonobu “Laïcité in Late Nineteenth-Century France”, Santander International Summer Schools for doctoral students, “What is Caesar’s, What is God’s? : A transcultural perspective on the legitimation of the political and religious spheres”, Kyoto University (Kyoto), 16 March 2015.

DATE Kiyonobu, « La question laïque et ses linéaments au Japon », Conférence à la Maison Universitaire France-Japon, Strasgourg, Maison Universitaire France-Japon, le 5 mars 2015. ストラスブール (フランス)

DATE Kiyonobu, « Quel avenir de la mémoire ? Les postérités de *L’Avenir de la mémoire* de Fernand Dumont », Congrès annuel de l’Association coréenne d’études québécoises, le 25 octobre 2014. ソウル (韓国)

伊達聖伸「フランスのライシテと植民地主義の記憶——イスラームの組織化の論理」東北大学大学院国際文化研究科 2014 年度科長裁量経費による講演会、東北大学 (宮城県・仙台市) 2014 年 10 月 3 日

伊達聖伸「宗教」から「宗教的なもの」へ——フランスの宗教研究における近年の動向と人類学への示唆」共同研究会「宗教人類学の再創造——滲出する宗教性と現代世界」国立民族学博物館 (大阪府・吹田市) 2014 年 6 月 28 日

DATE Kiyonobu, « La laïcité : de curieux chassés-croisés entre la France et le Japon ? », Colloque « L’avenir des échanges franco-japonaise en sciences humaines et sociales » à l’occasion du 30<sup>e</sup> anniversaire du Prix Shibusawa-Claudiel, Paris, Maison de la culture du Japon à Paris, 7 juin 2014. パリ (フランス)

伊達聖伸「フランスのライシテ——分離と管理の両義性」神道宗教学会シンポジウム「国際比較の中の「神道」と「国家」」、國學院大学 (東京都・渋谷区) 2013 年 12 月 7 日

伊達聖伸「環大西洋的文脈から見るフランスとケベックの政教関係」ソフィア・リサーチ・フェスティバル、上智大学 (東京都・千代田区) 2013 年 11 月 29 日

伊達聖伸「「宗教」から「宗教事象」へ——フランスの宗教研究の動向から」第 72 回日本宗教学会、國學院大学 (東京都・渋谷区) 2013 年 9 月 8 日 (パネル「宗教概念 / 宗教研究のグローバル化に関する比較研究」にて発表)

伊達聖伸「「政治」と「宗教」の関係の諸類型——近現代ヨーロッパのライシテの

視点から」特別公開シンポジウム「西アジア・北東アフリカ史における「政治」と「宗教」再考——エジプトを舞台に」、筑波大学 (茨城県・つくば市) 2013 年 7 月 26 日

伊達聖伸「政教分離の歴史的意義」国際日本文化研究センター・シンポジウム「宗教と公共性——神道と宗教復興から」、国際日本文化研究センター (京都府・京都市) 2013 年 7 月 22 日

伊達聖伸「フランス啓蒙主義とロマン主義における啓蒙批判——比較軸としてのイギリス」第 85 回日本英文学会 (SYMPOSIA「啓蒙の変遷——18 世紀から 19 世紀の宗教・道徳・文学を問い直す」にて発表) 東北大学 (宮城県・仙台市) 2013 年 5 月 25 日

DATE Kiyonobu, « De la laïcité de séparation à la laïcité de reconnaissance au Japon », Colloque international « Laïcité, Laïcités : Reconfigurations et nouveaux défis (Afrique, Amériques, Europe, Japon, Pays arabes), Paris, Site Pouchet du CNRS, 11 avril 2013. パリ (フランス)

#### [ 図書 ] (計 9 件)

磯前順一・川村覚文編『他者論的転回——宗教と公共空間』ナカニシヤ出版、2016 年 (伊達聖伸「フランスにおける「承認のライシテ」とその両義性——ムスリムの声は聞こえているか」175~200 頁を執筆)

上智大学外国語学部フランス語学科編『新・地域研究のすすめ フランス語圏編』上智大学外国語学部フランス語学科 (2015) 2016 年 (伊達聖伸「フランスの宗教」153~157 頁)

宇野重規・伊達聖伸・高山裕二編『共和国か宗教か、それとも——十九世紀フランスの光と闇』白水社、2015 年 (「社会主義と宗教的なもの——ジャン・ジョレス」253~284 頁を執筆、「鼎談：シャルリ以後の新たなフランス学に向けて」137~149、285~298 頁)

上智大学アメリカ・カナダ研究所編『北米研究入門——「ナショナル」を問いなおす』上智大学出版、2015 年 (伊達聖伸「ケベックの文化的アイデンティティと多文化共生の試み」119~142 頁を執筆)

Jean Baubérot, Micheline Milot et Philippe Portier (sous la direction de), *Laïcité, laïcités : Reconfigurations et nouveau défis*, Paris, Éditions de la Maison des sciences de l’homme, 2014.

(DATE Kiyonobu, « De la laïcité de séparation à la laïcité de reconnaissance au Japon ? », pp.169-188.)

小倉孝誠編『十九世紀フランス文学を学

ぶ人のために』世界思想社、2014年(伊達聖伸「文学と思想」176～197頁を執筆)  
永見文雄・三浦信孝・川出良枝編『ルソーと近代——ルソーの回帰・ルソーへの回帰』、風行社、2014年(伊達聖伸「19世紀フランスにおける市民宗教の諸相——コント、トクヴィル、デュルケム」127～141頁を執筆)

日本ケベック学会日ケ交流40周年事業編集委員会『遠くて近いケベック——日ケ40年の対話とその未来』、御茶の水書房、2013年(伊達聖伸「ライシテのアプローチによる倫理・宗教文化教育と間文化主義(アンテルキョルチュラリスム)の精神」194～199、203～204頁を執筆)

Philippe Guignet (sous la direction de), Transmettre les valeurs morales : Des réformes religieuses du XVI<sup>e</sup> siècle aux années 1960, Paris, Riveneuve, 2013. (DATE Kiyonobu, « L'enseignement de la morale dans le département du Nord au temps de la laïcisation (1870-1914) », pp.255-274.)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伊達 聖伸 (DATE Kiyonobu)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：90550004